

多言語多文化教育研究センター(通称タタセ)主催

10周年シンポジウム

自分を知り、 他者を理解する

～物語が映し出すことばと文化の世界～

本シンポジウムでは、「ことば」と「文化」を切り口に、タタセの教員たちがそれぞれの専門領域で取り組んでいる「自分を知り、他者を理解する」ことに関わる講演をお届けします。

会場: 図書館3階 Hidamari 2023年12月16日(土) 13:30～15:35
(13:00 開場)

～ 第1部 ～

13:30～13:35 開会の挨拶 (村上啓介 副学長・
多言語多文化教育研究センター長)

参加無料

13:35～13:55
「嘆願書が示す多様性: 1920年代のサモアにおける反統治運動」 矢野涼子 (英語教育担当)

1920年代のサモアでは第二次マウ運動と呼ばれる反統治運動が起きました。この報告では、運動の際に使用された嘆願書の分析を通じて、現地住民の多様性を示します。

13:55～14:15
「Kamishibaiプロジェクト活動: 日本語教育における複言語教育の試み」 小柴裕子 (日本語教育担当)

本プロジェクトは、母国の「お話」を通じて世界とつながり、他者や自己への理解を深めていくことを目指しています。今回は、本プロジェクトの経緯と概要についてご紹介します。

14:15～14:35
「クリスマスから見るドイツ人のメンタリティー」 胡屋武志 (ドイツ語教育担当)

イエス・キリストの生誕を祝うクリスマスは、キリスト教と異質な自然神秘主義の要素が数多く含まれています。今回は、ドイツの冬を彩るクリスマスとともに、ドイツ人のこころについて考えます。

14:35～14:50 休憩 (10周年のスライド上映、ポスター紹介)

～ 第2部 ～

14:50～15:10 ゲストスピーカー 北海道教育大学教育学部准教授 井筒勝信
「ごめんください、こんにちは: 他所のお宅に伺って」

訪問先でなされる挨拶等の遣り取りを中心にアイヌ語テキストの実例を参照し、多言語多文化教育の観点から考察を試みます。

15:10～15:30 質疑応答

15:30～15:35 閉会の挨拶 (金智賢 アジア・ヨーロッパ系部門長)